第１回がんばらんばカップ

２０１１／１／１５　諫早運動公園

今日は諫早で第１回がんばらんばカップが行なわれました。

天気は悪化していく予報でしたが、朝から１７時までほとんど雨も降ることなく終えることが出来ました。

がんばらんばカップ結果

優勝　　親和銀行　４勝０敗

準優勝　　海星高校　３勝１敗

第３位　　三菱重工　　２勝２敗

第４位　　長崎国際大学　　２勝２敗

第５位　　高校選抜　　１勝３敗

第６位　　中学選抜　　０勝４敗

優勝は親和銀行テニス部。

長年、長崎県のテニス界を引っ張っている社会人チームが記念すべき第１回大会を制しました！！

今回、幅広い年齢層が集まり試合をしたことで、普段一緒にやっている選手とはまったく異なるプレースタイルの選手たちと試合を行なうことができました。

中学生から社会人まで、攻めや守りのバランスもまったく異なるプレースタイルに戸惑うこともあったと思いますが、個性が非常に出ていて見ていて非常におもしろい対戦が多かったです。

中学生ＶＳ三菱重工

社会人の無駄の無いプレーに中学選抜は何もできず。

スピードにこだわるよりももっと大事なことがあることを肌で感じました。

そして、今日開催するにあたって、貴重な休日を使い、相手をしてくださった親和銀行・三菱重工・長崎国際大学のテニス部の方々。

そして、中学選抜の引率をしていただいた帯山先生、大会の運営に関わってくださった先生方。

中学生選抜・高校選抜・海星にとっては、非常に貴重な経験をすることができました。

中学生や高校生は「良い経験をすることができた」と感想を言っていましたが、彼らには見えないところで様々な方々がサポートしていることを感じなければいけません。

この大会の目的は、３年後に控えた長崎国体に向けての強化はもちろんですが、長崎県全体での取り組みを増やし、長崎県が一つになり国体に目を向けて行くことです。

口で言うのは簡単ですが、これを実践することは思っている以上に難しいことです。

そのためには、選手だけではなく、様々な形で応援・サポートをしてくださる方々が必要です。

今回、参加して下さった社会人・大学生からは「いつでも呼んで」「良い練習になった」など肯定的な意見ばかりだったので、非常に有難いことだと思います。

中高生は、今日の経験を自分たちの舞台に持ち帰って、どのように進化していくかが重要です。

こういった機会を今後も増やしながら、様々な方々を良い意味で「巻き込んで」いきたいと思います。

保護者の方々も応援・サポートありがとうございました！

次の機会では、もっと暖かい時期に開催し、テニス教室も大々的にやりたいと思います。

明日は大雪の予報なので、女子は開催できませんでしたが、今後機会を見つけて必ずやりたいと思います。

今回、関係してくださった皆様ありがとうございました！！

今後も長崎県テニスの応援よろしくお願いします！！

第２回がんばらんばカップ

２０１２／１／１５　諫早運動公園

今日はがんばらんばカップの２日目。

昨日よりは少し肌寒さはありましたが、天気も晴れ、無事に大会を終えることができました。

男子結果

１位　親和銀行
２位　海星
３位　社会人選抜
４位　長崎国際大学
５位　中学選抜
６位　高校選抜

女子結果

１位　長崎国際大学
２位　社会人選抜
３位　海星
４位　高校選抜 A
５位　高校選抜 B
６位　中学選抜

第２回がんばらんばカップは親和銀行、長崎国際大学女子の優勝となりました。

男子準決勝の２試合の親和銀行 VS 社会人選抜、海星 VS 長崎国際大学と決勝の親和銀行 VS 海星はすべて３－２。

女子も準決勝から決勝まですべて２－１。

最後の試合に勝敗がかかるという非常におもしろい試合展開でした。

団体戦の応援にも熱が入りました。

競った試合内容の中で、試合を決めたのは、経験の差だったと思います。

もちろん、高校生も技術や勝負度胸で何度もプレッシャーをかけましたが、最後は押し切られました。

ゲームカウント４－１からの逆転負けがいくつかあり、攻め急いだ試合が多かったように思います。

社会人の選手たちのプレーには、いつも驚かされます。

少ない練習時間や体力維持の難しさを感じる中で、勝つチャンスを逃さない。

簡単なようですが、高校生にとっては足りないことが多くありました。

今大会は、様々な点で成功した大会だったと思います。

しかし、この大会は社会人の選手の方々の協力無しには開催できませんでした。

本当に貴重な休日の時間を使って参加してくださった皆様に感謝したいと思います。

また、多くの保護者の方々や観客の方々に見ていただき、選手たちも非常に良い緊張感を保つことができました。

２日間の応援、本当にありがとうございました！！

来年はさらに良い大会にできるように準備したいと思います。

明日からも応援よろしくお願いします！！

第３回がんばらんばカップ

２０１３／１／２７　　柿泊・松山

多くの方々のサポートを受け、大会が無事に終了しました。

海星高校は、予選リーグを１位で突破し、決勝トーナメントへ進出しました。

準決勝

海星　　４－０　　長崎国際大学

S1　上杉　　６－１　　渡邊

S2　北村　　６－２　　藤崎

S3　賀川　　６－１　　北條

D1　矢野・長尾　　７－５　　石井・藤田

D2　真崎・西野　　５－４　　清水・花川

ふくおかフィ　　３－２　　TeamKAISEI

S1　松永（雅）　５－７　　黒田

S2　井上　　６－０　　川津

S3　川端　　打切　　内田

D1　吉田・松永　　７－６　　大串・酒井田

D2　杉本・朝永　　６－４　　榎本・大塚

決勝

海星　　３－２　　ふくおかフィナンシャル

S1　上杉　　４－６　　松永（雅）（親和銀行）

S2　北村　　７－６　　井上（熊本ファミリー銀行）

S3　賀川　　６－０　　川端（熊本ファミリー銀行）

D1　矢野・長尾　　６－７　　吉田・松永（貴）（熊本ファミリー・親和銀行）

D2　真崎・西野　　７－６　　杉本・朝永（親和銀行）

第３回を迎えたがんばらんばカップで、悲願の初優勝を果たしました。

勝敗のかかったダブルス２では、相手のマッチポイントを何度もしのいで、最後は西野がドライブボレーで決めました。

九州実業団でも活躍しているふくおかフィナンシャルグループ相手に、今大会を締めくくる上で、最高の試合を行なうことができたと思います。

参加していただいた選手・関係者・保護者、そして多くのギャラリーが見守る中で、緊迫した場面と大歓声の中で力を発揮しなければいけない状況はまさに全国大会と同じ状況でした。

あのような雰囲気の中で、試合を行なうことができたことは本当に幸せなことだし、そこが長崎県であるということを忘れるほどでした。

長崎に戻ってきて７年になりますが、長崎県内であんな雰囲気で試合をしたのは、初めてでした。

大袈裟かもしれませんが、長崎県が一つになっていたように感じます。

高校生にとっては、全国大会を見据えたときに、あの場面でいかにして集中力を維持し、相手と「勝負」できるか。

ミスに対して、気持ちを落とさずに最後まで諦めずにプレーできるか。

応援含めて、全国大会前に今のチームに必要な「自信」と最後まで諦めない「気持ち」を身に付けることができました。

ベンチに入り、選手の緊張や鼓動を感じながら、どういった声かけが選手に響くかも確認でき、非常に勉強になりました。

今大会が、第３回を迎えるに当たって、本当に多くの方々にご協力いただき、素晴らしい大会となりました。

準優勝のふくおかフィナンシャルを始め、福岡銀行、社会人選抜、プリンス、TeamKAISEI など社会人チームの活躍が目立つ大会となりました。

社会人チームとの対戦では、高校生以下の選手たちにとっては、結果だけでなく、これまでとは異なる「経験」とテニスに対する新たな「視点」を学ぶことができた大会だったと思います。

社会人の方々は日頃から満足な練習もできない中で、言い訳することなく、全力でプレーしていただきました。

今回、小学生～高校生まで参加し、見るだけでなく実際にボールを受け、多くのアドバイスを頂きました。

良いお手本として、そして将来自分たちもそういった立場でプレーできるように日々成長してほしいと思います。

小学生～高校生にとっては、今大会は１日だけかもしれません。

しかし、この「１日」を過ごすために、多くの監督・コーチ・保護者・関係者の見えない「力」が働いています。

彼らに本当に強くなってもらいたい、様々な経験を積ませたいという想いがあります。

選手選考から編成、直前まで変更などあり、多くの苦労があることを忘れてはいけません。

だからこそ、ジュニアたちにやってほしいことがあります。

見えない「力」で支えてくださる多くの方々がいることを感じ、見えない「努力」を積み重ねてほしい。

長崎県には、多くの才能溢れるジュニアがいます。

彼らのさらなる成長を期待したいと思います。

そして、今大会は審判員の方々に SCU をお願いし、快く引き受けていただきました。

審判が入ることで、選手にも緊張感が生まれ、今大会が目指していた形に近づくことができました。

また、予選リーグから最後は決勝まで付いていただき、本当にありがとうございました！！

そして、今大会は寒さが強まる中での開催となりましたが、選手たちは本当にプレーしやすい状況で行なうことができました。

そこには、選手たちが全力プレーを見せてくれた陰で、海星テニス部保護者の方々の豚汁やぜんざい、コーヒーなどを選手のみならず関係者全員に提供していただきました。

改めて、海星テニス部保護者の強い団結力を感じると共に、いつも本当に素晴らしいサポートを受けていることを再確認できました。

大会を運営するに当たって、準備不足で足りない点が多々あったと思いますが、たくさんのサポートを受け、素晴らしい経験をすることができました。

この得られた経験で満足せず、必ずこの経験を力に変え、大きな結果を出していきたいと思います。

最後になりましたが、今大会に関係してくださった方々に、感謝の気持ちを持ち、今後もこのつながりを大切にして前に進んでいきます。

本当にありがとうございました！！

女子は松山テニスコート７面を使い、行ないました。

参加チーム

社会人選抜
CHOCOVIC
長崎国際大学
九州文化学園
高校選抜Ａ
高校選抜Ｂ
中学選抜Ａ
中学選抜Ｂ・小学選抜

今回の反省の一つでもありますが、男女同会場での開催が参加チーム数などの関係で出来なかったという点が挙げられます。

また、今回 SCU も男子会場に付いて頂き、審判をお願いした関係で男子会場のほうが、様々な点で多く人が動く状況が出来ていたように思います。

来年度に向けては、男女同一会場で行なっていきたいと考えています。

しかし、良い傾向もいくつか見られました。

社会人同士のつながりが少ない県内事情ですが、今大会を通して接点を見つけることができたところもあったようです。

県内の大会の参加数を見てみても、女子に関しては年々Ａクラスの試合に出場する選手が減少していることは明らかです。

そういった状況を変えるためには、こういった機会に横のつながりを作っていただき、お互いの成長を試合を通して確認する機会にしてほしいと思います。

また、高校を卒業してテニスを辞めてしまう選手も多いので、大学生や社会人と高校生とのつながりという点も非常に大切です。

そういった状況を見ても、長崎県内で大きなカギを握っているのは、長崎国際大学だと思います。

成年や少年の男女との架け橋として、やれることは多くあります。

そして、高校生にとっては、一番身近な大学生として見ています。

だからこそ、誰が見ても尊敬し、憧れるような振る舞いや行動・言動が必要だと思います。
テニス人口増加のためにも、これから長崎国際大学には頑張ってもらいたいし、ともに長崎県を盛り上げていければと思っています。

また、長崎国際大学は、第１回大会から連続で出場していただき、これまでも様々な強化練習を一緒に取り組んできました。
女子に関しては、昨年度は九州１部リーグで優勝し、九州チャンピオンとなり、全国王座にも出場しました。

男子に関しても、年々レベルも上がり、九州２部まで上がってきています。
海星からは男子選手がほぼ毎年お世話になっていて、海星卒以外の選手たちとも長い付き合いになっています。

今回、がんばらんばカップで嬉しかったことの一つとして、卒業を間近に控えた４年生の女子では斉藤・久場、男子では石井が参加してくれました。
男子会場では、石井くんからも「４年間お世話になりました」と挨拶され、４年間の早さと彼自身の成長を感じました。
大学４年間という期間は驚くほど早く、そして１８歳～２２歳という年齢的にも大きく成長する時期でもあります。
その頃に経験したことは、これからの人生において確実に役立つものになるはずだし、ならなければいけないと思います。

ただ、残念なことに時間には限りがあり、立ち止まっていても時間は進んでいきます。
このことは、競技性を高めて結果を追求するということではありません。
どんなに結果を出しても、人生で本当に必要な力はついてきません。
人間力をつけるためには、出来なかったことが出来たという経験を積まなければいけません。
そのためには、自分の考えをゼロにすることが必要です。

しかし、元々あるものをゼロにすることは容易ではありません。
それまで積み上げてきたプライドや意地が邪魔をするでしょう。
それでは、人間力も期待するほど伸びていきません。
今は一番身近な人たちから言われていることを一つずつ取り組んでみる、学ぶ作業を続けるべきです。

それがすぐには結果につながらなくても、長い目で見ると引き出しの多い人間になれるはずです。
これからも長崎国際大学テニス部の活躍を期待しています。

HP を更新してから多くの反響があり、驚いています。

改めて注目していただき、大会を行なう意味があったように思います。

プリンスの森山さんからも大会を見て、まだまだ頑張ってみようと思える大会だったというメールを頂き、ジュニア世代のみならず、社会人の方々にも刺激を与えることのできた機会となり、大変嬉しく思います。

今日は、海星テニス部 OB で構成された TeamKAISEI を特集してみたいと思います。

今回、がんばらんばカップ開催に当たり、社会人チームへの打診からスタートしました。

親和銀行の朝永監督、杉本キャプテンには、福岡銀行や熊本ファミリー銀行の参加など新しい風を入れて頂き、感謝しています。

そんな中、HP を見た海星テニス部 OB の大塚さんから連絡を頂き、海星 OB ドリームチームも参加していただけるようになりました。

チームを編成するに当たり、若手からベテラン、県内から大分・福岡・東京・栃木県から多くの選手たちに参加していただき、名前を見ただけでも誰もが興味を持つようなメンバーが揃いました。

選手の中には、３５歳以上全日本チャンピオンでもある黒田さん（サトウ GT）も栃木県から、この日のためだけに帰ってきてくださいました。
試合の方も、県内トップを争う親和銀行の松永雅に勝利するなど、年齢を感じさせない動きとゲームメイクは勉強になることばかりでした。

同じく、福岡県から参加していただいた酒井田さん（ﾌｧｲﾝﾋﾙｽﾞ）も大串（大分大学３年）や榎本（海星３年）と組み、全試合に出場していただきました。
若い選手たちのスピードに驚かれながらも、展開を変えるロブやペアの良さを引き出すプレーを随所に見せてくれました。
４５歳以上で九州内外の大会で数々の優勝を果たしている実績を十分に証明していただきました。

今回、TeamKAISEI として参加した内田・榎本にとっては、OB の「巧さ」と「強さ」と「優しさ」を感じることができ、OB との絆も再確認できたと思います。
北條含めて、卒業後も全国におられる OB に見守られていることを感じながら、日々を過ごしてほしいです。

また、今回試合には出場されませんでしたが、OB 会長の芝田さんを始め、吉田さん（三菱重工）中川さん（親和銀行）など多くの OB が応援に駆けつけてくださいました。

しかし、大会を大いに盛り上げてくれた TeamKAISEI ですが、ここまでの選手や関係者が集まってくださった陰で、OB の大塚さんが忙しい仕事の合間に連絡を取り合っていただきました。

みなさん口を揃えて言われるのは、今回このチームは、大塚さん無しではあり得ないチームだといわれていました。
ここまで海星のために力を貸していただける OB がいることを幸せに感じ、強いバックアップを背中に受けながら現役は進んでいこうと思います。

そして今回、前男子監督の東口亨先生が久しぶりにベンチに入り、選手たちと一緒に試合を楽しんでいました。
OB からすると懐かしい光景であり、現役からすると新鮮な光景でもありました。

大会を大いに盛り上げ、強いインパクトを与えてくれた TeamKAISEI。
次回はまたさらに多くの OB に参加していただき、盛り上げて欲しいと思います。

その夜に行なわれた懇親会では、試合の話や高校時代の話、そして現役に対する思いなど多くのお話を聞くことができました。

また３月に行なわれる全国選抜に応援に駆けつけてくださる方も多くいらっしゃるということで、また一段と気持ちを引き締めて取り組んでいきます。

第４回がんばらんばカップ

２０１４／１／１９　　柿泊・松山

男子は柿泊、女子は松山にて開催しました。

昨日は前日よりも冷え込まずに１日快晴の中での大会となりました。

今回で第４回目となるがんばらんばカップですが、年々参加者が増え、今年は選手１６０名の参加でした。

第１回大会７４名→第２回７２名→第３回１３６名→第４回１６０名という参加者の推移です。

関わってくださった方々（SCU・海星保護者による炊き出し）を含めると２００名を超える規模の大会となりました。そして今回、１～８番コートを SCU 方式で試合を行い、審判委員の方々にご協力いただきました。ご協力いただいた方々のお陰で、単なる楽しみで終わる大会ではなく、真剣勝負の大会として試合を行なっていく上で、より一層の緊張感を与えてくれたと思います。

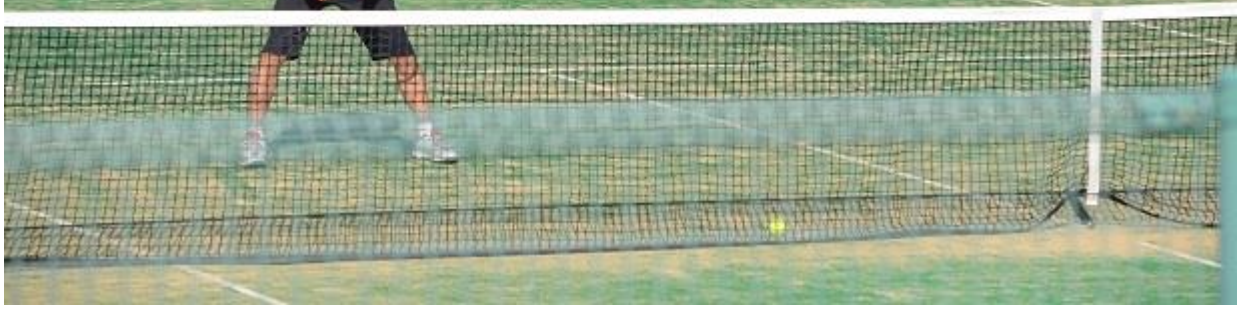
また、昨年同様に海星高校テニス部保護者の方々が炊き出し（豚汁・ぜんざい）を行なっていただきました。

選手だけでなく、BP や SCU の方々、応援に来た方々などにも振る舞っていただきました。

大会を行なっていく上で、こういったサポートを受けられることに大変感謝します。

大会当日まで連日保護者間では準備に相当の時間と労力がかかっていると思います。

本当にありがとうございました！！



大会は予選を各４チームの４グループに分けて、各グループの順位により本戦トーナメントを行いました。

海星高校 A は A グループ１位となり、１位トーナメントへ。
海星高校 B は D グループ２位となり、２位トーナメントへ。
海星高校 B のシングルスは全試合、田中と里が務めました。

普段はダブルスで出場している彼らも、シングルスで出場してみて体力的な厳しさや精神的な重圧も感じられたと思います。
今後の団体戦を行っていく上で、良い経験になったはずです。

海星 A は、１位トーナメント準決勝で社会人選抜を３－０で下し、親和銀行との決勝に臨みました。

決勝戦
海星 A　　１－２　　親和銀行
D　有吉・長尾　　３－８　　杉本・松永貴
S1　上杉旬生　　８－６　　松永雅
S2　藤永大真　　１－８　　山口

残念ながら優勝を逃し、２連覇はなりませんでした。

しかし、選手は最初のポイントから全力で相手に立ち向かっていき、気持ちで引かない試合ができました。

気持ちを最後まで維持し、プレーすることが出来たし、見ていて何かを感じられる部分はありました。

それが当たり前になって、誰からでも信頼される選手・人間になれるように、今後の選手たちの「動き」に注目していきたいと思います。

これまで何度もチーム理念を選手たちに伝えてきましたが、大事なことはルールを守ることではありません。

授業中の態度や姿勢を正すことや試合中の気持ちを押し出すパフォーマンスは、何のためにやるのか。
それは、ルールを破ると罰があるからではなく、仲間に迷惑をかけない・チーム理念として約束を守っていくためにやるべきことだからです。
だからこそ、チーム全員がチーム理念を持って、その中で一人一人の個性を伸ばしていくことが必要です。

チーム理念を作るのは、指導者ではなく、選手自身です。

毎年、代が変わり、主将の色を出し理念を作っていきます。

今年は上杉がどんな理念を作っていくのか楽しみです。

優勝した親和銀行テニス部。

第１回大会より参加していただいている長崎県を常にリードしている実業団チームです。

また、今年の４月入社予定の山口大輝（海星 OB・福岡大学）も今大会に参加してくれました。

長崎県では一般の選手たちの目標であり、壁ともいえるチームです。

その中で OB（朝永監督・杉本主将）が活躍しているのを、非常に誇りに思います。

同じ海星高校 OB で社会人選抜 No.1 として出場した吉田（三菱重工）。

同じ社会人チームには、新井さん・河村くん（三菱重工）・加治屋さん（長崎 TLD）・山中・原口（海星 OB）が参加してくれました。

熊本銀行との予選ブロックの試合は、手に汗握る白熱した試合となり、長崎県選手の意地を見せてくれました。

そして、前回大会より参加していただいている熊本銀行テニス部（前熊本ファミリー銀行）。

がんばらんばカップ最初の県外チームとして参加していただき、新たな風を入れていただいています。

同じ県外チームとして参加していただいた、福岡銀行テニス部。

長崎県のクラブチーム選手権で優勝しているプリンス。

そして、一番のインパクトを残したのは、フンドーキン醤油テニス部（大分県）。

シングルス１として出場した岡部くん（神戸学院大学出身）は、パワーとスピードともに大会ナンバー１でした。

サービスのスピードも SCU の方々が驚くほどで、国体に向けてスピードに慣れる良い機会になったと思います。

そして、親和銀行と同じく第１回大会より参加していただいている長崎国際大学（九州１部リーグ所属）。

同じく県内大学として精力的に活動している長崎大学医学部。

今回、これだけの県内外の社会人チーム・大学生に参加していただき、大会は大いに盛り上がりました。

対戦した高校生を始め、小学生・中学生も試合後にはアドバイスを求める姿も見られました。

長年テニスに関わっているからこそ、様々な視点でテニスというものを見ることができます。

ジュニア選手たちにとっても、非常に良い機会になったはずです。

ジュニア選手たちが今大会の出場を目標とするような大会にしていければと思います。

社会人・大学生の選手・監督の皆様、ありがとうございました！！

がんばらんばカップ女子の部は、松山会場で行ないました。

過去最多のメンバーが集まっていただき、また大会自体にも昨年以上の盛り上がりやレベルの高さを見せたようです。

長崎県女子は、昨年の国体でも少年女子が第３位に入る素晴らしい結果を残しました。

第４回がんばらんばカップ決勝では、TeamNagasaki の江代選手（九州文化学園３年）と九州文化学園の山口選手（２年）の国体ペアがレベルの高い試合を繰り広げてくれたようです。

コート面数が７面と限られているため、最後は打ち切りになった試合もあったようですが、それだけ参加者の白熱した試合が多くあったということです。

第１回大会は天候不順のため、中止となった女子に関しても年々参加者が増え、今後益々発展させていければと思います。

今回、女子会場の試合進行に関して、高体連の先生方のサポートが少なく、ジュニアコーチの皆様には大変お世話になりました。

ありがとうございました！！

第５回がんばらんばカップ

２０１５／１／１８　　柿泊

日曜日に行われた第５回がんばらんばカップ。

長崎国体を見据えて、５年前から始めた強化大会ですが、毎年多くの方々に支えられて開催できています。

特に、３年前から海星高校テニス部保護者の方々が炊き出しを準備してくださり、大会はそれまで以上の盛り上がりを見せるようになりました。

保護者の皆様においては、当日の作業だけでなく、事前の申請から準備まで多くのご協力を頂いています。

海星ＯＢにも大好評でした！！
また今年、初めて各チームにアンケートを行いましたが、全チームが保護者の方々の炊き出しに感動されていました。

本当にありがとうございました！！

そして、大会は昨年の結果から各ブロックのシードチームとして、男子は親和銀行・社会人選抜・フンドーキン醤油・海星高校、女子は九州文化・ＴｅａｍＮＡＧＡＳＡＫＩを設定し、組み合わせを決定しました。

男子においては日本リーグでも活躍した大出選手（三菱電機）が初出場した社会人選抜でしたが、ＴｅａｍＫＡＩＳＥＩに敗れ２位トーナメントへ。

男子準決勝

親和銀行　１－２　ＴｅａｍＫＡＩＳＥＩ
Ｄ　杉本・朝永　６－７　黒田・長尾（サトウＧＴ・海星③）
Ｓ１　松永雅　３－６　上杉（海星③）
Ｓ２　山口大　６－３　吉田（三菱重工）

ダブルスに出場した海星ＯＢ４人が素晴らしいプレーを見せました。

４－０まで朝永・杉本組はノーミスの完璧な内容でしたが、そこからのＴｅａｍＫＡＩＳＥＩの怒濤の追い上げで流れを変えてチームの勝利を大きく引き寄せる１勝を上げました。

フンドーキン醤油　１－２　海星高校
Ｄ　松木・渡邊　６－７　藤永・坂上
Ｓ１　岡部　６－３　蘭
Ｓ２　今古賀　４－６　今林

フンドーキンチームのシングルス１の岡部選手は昨年同様、スピード＆パワーともに大会ナンバー１でした。

予選リーグでも中学生選抜や長崎大医学部が対戦させていただき、勉強になるものだったと思います。

シングルス２は海星高校から１－４ダウンでしたが、そこから今林（１年）が段々と流れを掴んでいき決勝進出を決める勝利を上げました。

男子決勝

ＴｅａｍＫＡＩＳＥＩ　１－２　海星高校
Ｄ　長尾・吉田　２－６　藤永・坂上
Ｓ１　黒田　５－７　蘭
Ｓ２　上杉　６－２　今林

海星高校としては、２年ぶりの優勝を果たしました。

しかも、ＯＢチームである TeamKAISEI を倒しての優勝は価値のある勝利だと思います。

勝敗を決めたのはなんと言っても、シングルス１で出場した蘭（１年）と黒田さんの試合でした。

ＯＢとの対戦でも、しっかりと自分のテニスを貫くことができたことは蘭にとっても非常に大きなことでした。

苦しい場面においても、粘り強くキープを続け、最後のゲームでプレッシャーをかけてブレークという理想の展開。

全国選抜に弾みのついた大会となりました。

女子決勝

九州文化学園　２－１　ＴｅａｍＮＡＧＡＳＡＫＩ
Ｄ　城間・金子　６－２　長澤・橋川
Ｓ１　中島　０－６　山口
Ｓ２　大村　６－２　川口

女子は決勝で九州文化学園が九州文化学園３年生を中心としたＴｅａｍＮＡＧＡＳＡＫＩを２－１で下し、２連覇を達成しました。
女子はどの試合も接戦で、２－１で勝ち上がるチームが多くいたことは大会をさらに盛り上げてくれました。

そして、中学生選抜チームは原田選手（ＳＮＴＣ）が今年度国体選手として活躍した山口選手（九州文化学園３年）を倒すなど、小学生・中学生の成長を強く感じました。
この大会をきっかけに、県内だけではなく九州・全国で勝てる選手になっていって欲しいと思います。

初めての試みでもあった男女同一会場でしたが、非常に良い効果を出していました。
来年も同じように同一会場で実施していきたいと思います。
選手の皆様、関係者の皆様、ご協力ありがとうございました！！

３回目の出場となるＴｅａｍＫＡＩＳＥＩ。

海星高校ＯＢ＋３年生でのチーム編成で毎年メンバーは替わっていますが、黒田さん（サトウＧＴ）は３年連続参加していただいています。
１年目は３位、２年目は予選敗退と悔しい結果が続いていましたが、今年も黒田さん・加茂さん・吉田くんという歴代の海星ＯＢが出場してくれました。

予選リーグは大出選手（三菱電機）率いる社会人選抜が同じグループで、紙一重の戦いでした。

ＴｅａｍＫＡＩＳＥＩ　２－０　社会人選抜
Ｄ　長尾・吉田（海星③・三菱重工）　７－６　新井・河村
Ｓ１　黒田　６－４　大出
Ｓ２　上杉　４－５　穐山

そして、１位トーナメント準決勝では海星ＯＢである朝永・杉本・山口選手率いる親和銀行との対戦。
ダブルスを組んだ長尾は今回、準決勝まででＯＢ全員とダブルスを組ませて頂きました。

１人１人年齢は違うものの、テニスを愛し長年続けてきた深みがプレーに表されていたはずです。

そして、集まってくれたＯＢ全員が海星愛に溢れていたはずです。

ダブルスを組んだ長尾だけでなく、シングルスに出場した上杉含めて今後ＯＢとなる上での振る舞いも学ぶことが出来ました。

この貴重なつながりを今後も大切に続けていって欲しいです。
そして、決勝では海星高校との対戦でした。

どの試合も緊張感があり、素晴らしいレベルの試合だったと思います。

ＴｅａｍＫＡＩＳＥＩの吉田選手も、準決勝の試合で足をつりながらも、志願して決勝もコートに立ちました。

優勝することは出来ませんでしたが、決勝で後輩たちにＯＢたちの絆の強さをしっかりと見せてくれました。

また、わざわざ東京からこの日のためだけにお越し下さった黒田さんのプレーを見に来られた観客の方もいました。

大会を開催するに当たって、欠かせない存在です！！本当にありがとうございました！！
そして、夜には懇親会も行われ、また来年に向けたスタートを切りました。

今年も様々な選手に声をかけていただき、仕事の合間をぬって、これだけのメンバーを集めてくださった大塚さんにも感謝しています。

懇親会でＯＢの方々とと話をさせていただいて感じたことは、高校時代に行動に移すことが出来た理由と今回参加した理由の違いです。

高校生の時には、何か行動に移すときに、「好きなこと」か「得なこと」か「恐怖」かで決めることが多かったようです。

テニスが好きだから、朝早くから出てきて自主練習を行う。

先輩の水くみに行くついでに、飲めなかった水を飲むことが出来た。

先輩や監督が恐くて、怒られないように正しい行動をとっていたなど。

しかし、今回ＯＢの方々全員が共通している参加した理由はただ一つ。

「東口亨先生を喜ばすため」

好きではないかもしれないし、損かもしれないし、恐くないかもしれない。
参加していただいたＯＢ一人一人が、「誰かが喜んでくれるなら」という可能性に動ける方々でした。
今の現役にも、将来そういった気持ちで動ける人間になって欲しいと思っています。
大塚さんのお陰で、海星ジュニアチームなど、ＴｅａｍＫＡＩＳＥＩが出場した３年前から様々なことが動き出したように感じます。

第６回がんばらんばカップ

２０１６／１／１７　　柿泊

日曜日に行われたがんばらんばカップは、今年で６回目の開催でした。

午前中までは弱い雨でしたが、段々雨は強くなり、一度は試合を中断することもありました。

その後も雨の中、試合を続行する形になりましたが、親和銀行テニス部を始めとした社会人チームも、長崎国際大学・長崎大学医学部の大学生チームも声を出し大会を盛り上げていただきました。

海星高校としては２連覇を狙いましたが、準決勝でフンドーキン醤油に敗退。

雨の状況を理解していながらも、難しい選択が多くあり、ゲームをコントロールすることが出来ませんでした。

全国選抜までの反省材料として、今後に生かさなければいけません。

男子に関しては、準決勝で親和銀行、決勝でフンドーキン醤油を倒して、ＴｅａｍＫＡＩＳＥＩが初優勝を果たしました。

特に、今年はフンドーキン醤油が来年度入社予定の矢野（海星ー福岡大学）・梶谷選手（福徳学院ー福岡大学）を加えた若手中心で気合いが入っていました。

仕事をしながらの維持や向上は、本当に難しいものだと思いますが、フンドーキンチームは年々パワーアップしているのを感じます。

何より、どんな試合でも力を出し切る姿勢が県内チームに多くの刺激を与えてもらいました。

ありがとうございました！！

そして、女子に関してはＦＦＧチームががんばカップ初参戦。

福岡銀行テニス部に加えて、円本選手（柳川高校ー九州電力）、定兼選手（柳川高校ー早稲田大学ー三井住友）というメンバー構成でした。

また、上田監督を始めとして、長崎国体で成年女子ベスト８に入った鐘江選手（福徳学院高校ー福岡大学ー福岡銀行）には大変お世話になりました。

がんばらんばカップには初めての女子実業団チーム参戦でしたが、来年も是非参加していただければと思います。

優勝した佐世保ＬＴＣは川口夏実選手を擁し、雨の中にも関わらず、しっかりとボールにパワーが伝わっていたのは印象的でした。

そして、準優勝した九州文化学園は３連覇は逃しましたが、ＴｅａｍＮＡＧＡＳＡＫＩとの準決勝では同じ九文３年生に対しても、後輩の勢いを感じるものでした。

王座奪還を目指し、また来年チャレンジして欲しいです。

また、今年は雨の中の運営となり、参加していただいた各チームには大変ご迷惑をおかけしてしまいました。

しかし、どのチームもコートに入ると、小学生～高校生相手にも全力で取り組んでいただきました。

ありがとうございました！！

そして、参加した全チーム・関係者にとって、海星高校テニス部保護者による炊き出し（豚汁・うどん・ぜんざい）が何よりの支えとなりました。

今年で４回目の出場となるＴｅａｍＫＡＩＳＥＩ

メンバーは若手のＯＢ中心でした。

TeamKAISEI

1．藤永大真（海星高校３年）

2．吉田唯将（三菱重工）

3．鈴木孝昌（HOS 小阪テニスクラブ）

4．井口裕大（フリー）

5．加茂孝介（TB）

6．橋川広太郎（プリンス）

今年は東京から井口（海星ー明治大学）、大阪から鈴木（海星ー神戸学院大学）が駆けつけてくれました。

毎年メンバーを集めることに尽力いただいている大塚さんも、今年は毎年参加していただいていた黒田さんの欠場もあり、チームとして物足りなさを感じていました。　外から見ていても朝から、勝敗よりもお祭りの雰囲気が感じられるものでした。

しかし、その雰囲気を一蹴し、メンバーを優勝するという気持ちに変えたのは藤永大真（３年）でした。

藤永は前日のがんばジュニアでも身体の状態も良くなく、不完全燃焼で大会を終えていました。

前日の疲れもあり、満身創痍の状態の中でも、朝からチームに「絶対優勝しましょう」という言葉をかけたそうです。

本人がチームにかけた言葉で、大塚さんだけでなくチームにスイッチが入りました。

そして、試合の上でも、団体戦ナンバー１として確実に１ポイントを奪っていく姿勢で優勝に貢献しました。

前日の内容から、がんばカップであれだけの集中力でプレーし続けることが出来たのは、団体戦にかける思いと海星愛を感じました。

４月からは甲南大学に進学が決まっています。

主将ということもあり、３年間一番指導してきた選手ですが、最後に見せた姿勢は一人の人間としての成長を感じるものでした。

大学でも活躍できるように、これからの期間も有効に時間を使って欲しいです。

そして、シングルス２に出場し、全勝した吉田唯将（三菱重工）は決勝でも足をつりながらも気迫で勝ちきりました。

何度も苦しい場面がありながら、自分を鼓舞し続け、優勝を決めるタイブレークを制しました。

高校生にとって一番良い見本となっています。

そして、ダブルスに出場した鈴木・井口は準決勝・決勝と競り負けましたが、チームに欠かせないムードメーカーとして、役割を果たしてくれました。

２人ともに、プレイヤーとして試合に出ているわけではなく、今回の機会で忘れていた感覚を必死に取り戻していました。

そして、毎年参加して頂いている加茂さんや橋川、海星ＯＢの方々の応援が力となり、悲願の優勝を果たしました。

夜には海星ＯＢによる懇親会が行われました。

今年は新しいＯＢも加わり、ＯＢ同士の顔ぶれも変わっていきます。

ＯＢが話す話題はいつも高校時代の失敗談ばかり。

しかし、高校時代の失敗が今の糧になり、今でもテニスを続けている要因になっています。

成功体験を積んだことだけが、高校時代の思い出のＯＢは誰もいません。

失敗しても、失敗しても、やめることなくやり続けてきたからこそ、以前よりも成功に近づいていることを実感出来る「今」があります。

現役部員には「今」は辛く厳しいものかもしれませんが、後からやってくる「今」のために何度も立ち上がる気持ちを大切にして欲しいです。

第７回がんばらんばカップ

２０１７／１／１４　　柿泊

１４（土）に行われた第７回がんばらんばカップ。

７年目を迎えた今年は長崎県勢初の日本リーグチーム「あきやま病院」が参戦。

今年の大会は、プロ選手たちのプレーを観ようと長崎県テニス愛好家の方々やテニスコーチなどが会場に足を運んでもらいました。

朝の早い時間から会場入りし、準備を始めるプロ選手たち。

試合に入ると、中学生・高校生相手にも隙を見せずに圧倒していきました。

そして、試合後には身振り手振りを合わせながら、気持ちのこもったアドバイスをくれました。

中学生の１人がアドバイスを求めると、１人の選手として振る舞いや態度を一喝されました。

それぐらいプロ選手たちは形式張ったアドバイスで終わろうとせず、本質に迫っていく内容が多かったように思います。

長崎県の選手たちに伝えたい思い、１人の選手として自立するための心構えを示してくれたと思っています。

ジュニア選手たちに対する刺激だけではありません。

準決勝では同じく長崎県を引っ張る実業団チーム親和銀行、決勝では鹿屋体育大学主将の北村を中心としたＴｅａｍＫＡＩＳＥＩと対戦。

特に、親和銀行の選手たちは、あきやま病院が自分たちよりも先に日本リーグ昇格を果たしたことに危機感を感じています。

今の現状に満足することなく、新しい取り組みや活動が求められているはずです。

改めて、あきやま病院だけでなく自分たちが長崎県を引っ張るというプライドが今後のモチベーションとなってほしいと思っています。

しかし、一方で大会中、長崎県のジュニア選手たちを見ていて、がっかりすることが多かったです。

準決勝からは、１位トーナメントのみの実施として、２・３位チームに関しては１６時からの強化練習会の前に試合観戦をしてもらうつもりでした。

しかし、あきやま病院試合中に、ジュニア選手の中にはゲームをしたり、壁打ちをしていることもありました。

これ以上ない環境を与えられていても、響かない状況が今の長崎県テニス界の現実を表しています。

ジュニア選手だけでなく、高校生にも同じことが言えます。

群れていることで安心感を得て、一歩踏み出さないことが多い。

今しかできないことに夢中にならずに、その時の自分自身の感情に負けてしまう。

情けない姿をプロ選手、そして、特に長崎県のために力を貸してくれた穐山監督に見せてしまい申し訳なく感じています。

長崎県の選手たちには、あきやま病院の選手たちがリスクを背負って参加してくれたことを理解して欲しい。

そして、間違った行動をとったと思う選手たちが、この経験を必ず活かしてほしい。

これが長崎県テニス界の分岐点であってほしいし、そうするために今後はもっとつながりを持った強化事業に励んでいきたいと思います。

あきやま病院や親和銀行・フンドーキン醤油の選手には、全試合終了後強化練習会にも参加してもらい、多くのアドバイスをもらいました。

「もっと良いボール打とう」　シンプルですが、いろんな意味を含んでいる言葉です。

試合でも練習でも技術的にアドバイスされるのは基本的なことですが、あとはそれを実行する選手たちの意識の差だと思います。

がむしゃらに練習に励むのではなく、意図を持ち確実なレベルアップを感じながら今後も進んで欲しいです。

長崎県テニス界全体で、「あきやま病院」を力の限り応援しましょう！！

がんばらんばカップテニス

男子あきやま病院V

女子はTeamNAGASAKI

テニスの第7回がんばらんばカップは14日、長崎市総合運動公園かきとまり庭球場で2単1複の団体戦が行われ、男子はあきやま病院、女子はTeamNAGASAKIが優勝した。

世代間の相互交流や強化が目的。男子12、女子8チームが参加し、予選リーグから決勝トーナメントで競った。

試合後は強化練習会を実施。日本リーグに参戦中のあきやま病院に所属する藤井信太、小野田賢、小野陽平のプロ選手3人や、岩手国体成年女子本県代表の長澤由佳（長崎国際大）、吉田ひかり（西南大）らが講師役を務め、ストロークの姿勢やネットプレーの動きを少年勢に指導した。あきやま病院の穐山敬明監督は「長崎のテニス界から、しっかり結果を出せるプロ選手が育ってほしい」と語った。（宮本祥太）

【男子】
◇予選リーグ
▽Aブロック　あきやま病院3－0中学選抜、海星高2－1中学選抜、あきやま病院3－0海星高
▽Bブロック　親和銀行2－1高校選抜A、高校選抜A3－0長崎大、親和銀行3－0長崎国際大
▽Cブロック　ファンドーキン醤油3－0小学選抜、ファンドーキン醤油3－0プリンス
▽Dブロック　TeamKAISEI2－1高校選抜B、高校選抜B2－1長崎国際大、TeamKAISEI3－0長崎国際大
◇決勝トーナメント
▽準決勝　あきやま病院2－0親和銀行、TeamKAISEI2－0ファンドーキン醤油
▽3位決定戦　親和銀行2－1ファンドーキン醤油
▽決勝　あきやま病院2－0TeamKAISEI
【女子】
◇予選リーグ
▽Aブロック　佐世保LTC3－0高校選抜A、TeamNAGASAKI3－0小学選抜、佐世保LTC3－0小学選抜、TeamNAGASAKI2－1高校選抜A、高校選抜A3－0小学選抜
▽Bブロック　中学選抜2－1九州文化学園高、FFG・九電3－0高校選抜B、九州文化学園高2－1高校選抜B、FFG・九電3－0中学選抜、FFG・九電3－0九州文化学園高、中学選抜2－

【女子決勝、TeamNAGASAKI―FFG・九電】TeamNAGASAKIの長澤（左）がボレーを決める。＝長崎市総合運動公園かきとまり庭球場　右は吉田

【男子決勝、あきやま病院―TeamKAISEI】あきやま病院の第2シングルス小野がストロークで攻める。＝長崎市総合運動公園かきとまり庭球場

Sports ナガサキ

女子優勝の東長崎

男子優勝の布津

県中学春季選抜団体

男子　布津

女子　東

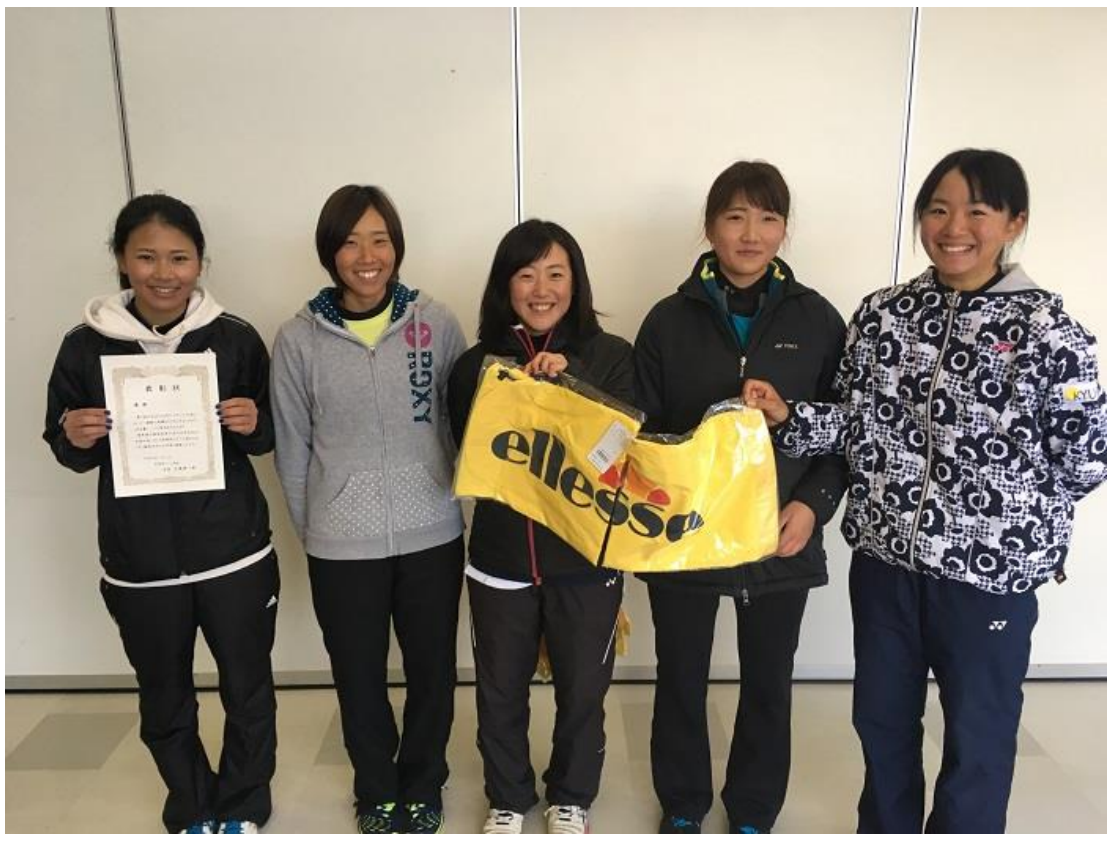
ソフトテニスの第2回県中学春季選抜団体大会は14日、島原市営総合運動公園庭球場で行われ、男子は布津が初優勝、女

長崎出身プロ選手輩出を目指して、頑張りたいと思います！！

男子と同じく柿泊で行われたがんばらんばカップ女子。

昨年は佐世保ＬＴＣが初優勝し、長崎県中学生の存在感を見せました。

今年の決勝カードは、ＦＦＧ+九電ＶＳＴｅａｍＮａｇａｓａｋｉ。



優勝したのは、県内高校出身の大学生を中心としたＴｅａｍＮａｇａｓａｋｉでした。

昨年、九州国体を突破し、岩手国体に出場した吉田（西南学院大学）・長澤（長崎国際大学）が参加したことで大会のレベルは格段に上がったと思います。

ＴｅａｍＮａｇａｓａｋｉの大学生らしいスピード感溢れる展開力とＦＦＧチームの落ち着いた分析力が随所に見られた決勝戦でした。

大学生にとっても、数少ない実業団チームとの対戦で、本人たちの将来のビジョンやアピールにもつながればと思っています。

そして、大会終了後には九州文化学園の山高監督・大学生選手たちの指導の下、ジュニア選手たちを最後まで引っ張ってくれました。

海星出身の吉田ひかりも、高校時代は無名な選手でしたが、大学で開花し活躍しています。

多くの高校生たちにも良い手本になっていると思います。

そして、実業団チームとして昨年から出場を頂いているＦＦＧ＋九電チームは今年は昨年以上に結果にこだわる姿勢が印象的でした。

試合を通して、ゲームコントロールの重要性をジュニア選手たちに伝えてくれました。

ジュニアが真っ向勝負でぶつかっていくのに対して、社会人が上手くかわすプレーで対抗する試合が多く、ジュニア選手たちの今後のプレーの選択肢増につなげて欲しいと思います。 社会人・大学生たちのプレーを見て、自分自身には無いプレースタイルを学び、自分なりの答えを見つけてほしいです。

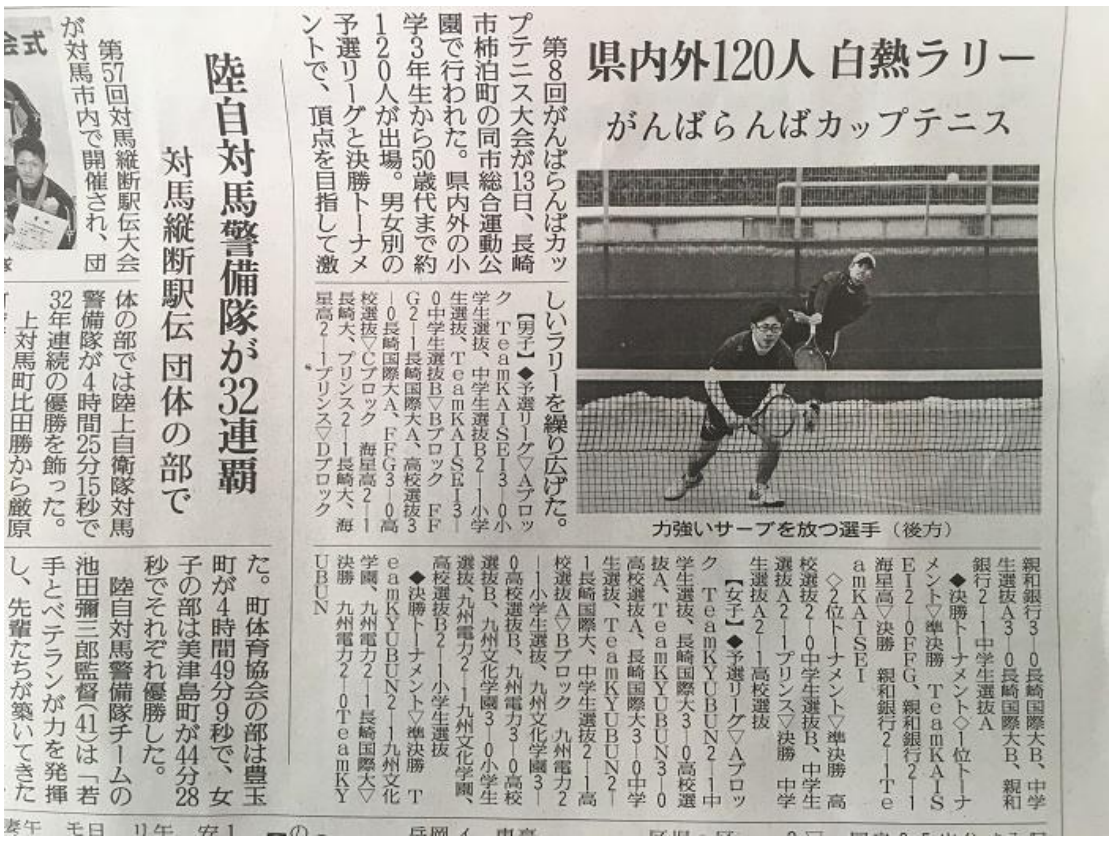
強化練習会をまとめていただいた九州文化学園の山高監督も、今後の課題としてチーム長崎としての意識の共有・浸透を目指した強化事業を定期的に企画していく必要があると感じています。

将来有望な選手たちのためにも、強化スタッフで今後のより良い強化に向けて様々な方法を模索していきます。

第8回がんばらんばカップ

2018／1／16　　柿泊

がんばらんばカップの記事が読売新聞に掲載されています。



県内外120人 白熱ラリー

がんばらんばカップテニス

第8回がんばらんばカップテニス大会が13日、長崎市柿泊町の同市総合運動公園で行われた。県内外の小学3年生から50歳代まで約120人が出場。男女別の予選リーグと決勝トーナメントで、頂点を目指して激しいラリーを繰り広げた。

【男子】◆予選リーグ▽Aブロック TeamKAISEI3－0小学生選抜、中学生選抜B2－1小学生選抜▽Bブロック FFG2－1長崎国際大A、高校選抜3－0中学生選抜B▽Bブロック TeamKAISEI3－0長崎国際大A、高校選抜3－0高校選抜▽Cブロック 海星高2－1長崎大、プリンス2－1長崎大、海星高2－1プリンス▽Dブロック 親和銀行3－0長崎国際大B、中学生選抜A3－0長崎国際大B、親和銀行2－1中学生選抜A◆決勝トーナメント◇1位トーナメント▽準決勝 TeamKAISEI2－0FFG、親和銀行2－1海星高▽決勝 親和銀行2－1TeamKAISEI◇2位トーナメント▽準決勝 高校選抜2－0中学生選抜B、中学生選抜A2－1プリンス▽決勝 中学生選抜A2－1高校選抜

【女子】◆予選リーグ▽Aブロック TeamKYUBUN2－1中学生選抜、長崎国際大3－0高校選抜A、TeamKYUBUN3－0高校選抜A、長崎国際大3－0中学生選抜、TeamKYUBUN2－1長崎国際大、中学生選抜2－1高校選抜A▽Bブロック 九州電力2－1小学生選抜B、九州電力3－0高校選抜B、九州文化学園3－0小学生選抜、九州電力2－1九州文化学園、高校選抜B2－1小学生選抜◆決勝トーナメント▽準決勝 TeamKYUBUN2－1九州文化学園、九州電力2－1長崎国際大▽決勝 九州電力2－0TeamKYUBUN

力強いサーブを放つ選手（後方）

陸自対馬警備隊が32連覇

対馬縦断駅伝 団体の部で

第57回対馬縦断駅伝大会が対馬市内で開催され、団体の部では陸上自衛隊対馬警備隊が4時間25分15秒で32年連続の優勝を飾った。上対馬町比田勝から厳原町を経た。町体育協会の部は豊玉町が4時間49分9秒で、女子の部は美津島町が44分28秒でそれぞれ優勝した。

陸自対馬警備隊チームの池田彌三郎監督(41)は「若手とベテランが力を発揮し、先輩たちが築いてきた

是非、ご覧下さい！！

今年のがんばらんばカップには、女子の九州電力チームがエントリーしていただきました。

実業団チームとして、九州で活躍した高校生が大学を経由して所属したり、高卒で入社している九州トップチームです。

４月から入社予定の宮原三奈選手（柳川高校）も参加していただき、長崎の高校生以下にとっても刺激の多い試合を行うことが出来ました。

（写真は宮原千佳選手）

宮原三奈選手は、決勝戦の前のわずかな時間でもウォーミングアップを欠かさず、試合に臨んでいました。

今でも全国トップクラスの選手ですが、コート上でのプレー以外でも、長崎県ジュニアにお手本として欲しい部分を多く見せていただきました。

お忙しい中、選手調整していただきました、平原監督ありがとうございました！！

時間の関係上、打ち切りとなり、初優勝となりましたが、是非とも来年も参加いただき長崎県強化に力をお借りしたいと思います。

同じく女子の九州文化学園ＯＧで構成されたＴｅａｍＫＹＵＢＵＮも元気に大会を盛り上げてくれました。

各年代で長崎県を背負ってきた選手たちが、帰ってこれる場があることも大切だと思います。

インカレ準優勝の江代さん（慶應義塾大学主将）も東京から駆けつけてくれて、怪我を抱えながらでも言い訳しない姿勢に、選手として正しい心構えとは何かを見せてくれていました。 がんばらんばカップは女子も毎年レベルアップしていっています。 長崎県ジュニアにとっても、女子の強化は最優先事項になっていますので、様々な部分を吸収して欲しいと思います。

そして、今年も男子は白熱した試合が続きました。

今年は予選リーグから接戦となりました。

Ａブロックでは小学生選抜が奮闘し、ＴｅａｍＫＡＩＳＥＩにも堂々と打ち合い、中学生選抜Ｂには１ポイントを奪う健闘を見せました。

Ｂブロックでは高校選抜が長崎国際大学Ａに勝ち、ＦＦＧに挑みましたが実業団チームの底力に敗れました。

Ｃブロックでは海星高校と決勝トーナメントを争った長崎社会人チームのプリンスが最後まで互角の試合内容を展開しました。

Ｄブロックでは長崎実業団チームの親和銀行に１－２で敗れましたが、シングルス・ダブルスともに実業団相手に一歩も引かない試合展開となりました。

昨年以上に決勝トーナメントをかけた１勝の重みのある予選リーグとなりました。

そして、決勝トーナメントではＴｅａｍＫＡＩＳＥＩがＦＦＧに２－０ストレートで勝利し、親和銀行が海星高校とのＳ２をタイブレークで制し決勝に進出。

決勝でも、ＴｅａｍＫＡＩＳＥＩのシングルス１藤永（海星３年）が圧倒的な試合内容で１勝すると、負けじと親和銀行もダブルスを取り返し１－１。

最後はＯＢ対決となり、親和銀行の古森選手がＴｅａｍＫＡＩＳＥＩの溝川（長国大）相手に接戦を制し、親和銀行の優勝が決まりました。

　親和銀行テニス部主将の山口大輝（ＯＢ）やエース松永雅選手も古森の活躍を喜ぶと共に、より団体戦でも力を発揮してもらうためにベンチに入り鼓舞している姿が印象的でした。　実業団として活動していく中でも、様々な苦労もあるかと思いますが、次の世代への継承のために各選手たちが役割を果たしています。

　ＯＢの古森選手について、山口主将も「今がチームの中でも一番良い」と力を認めながらも、今後チームの信頼を勝ち取るエースになるためにどんな相手に対してもファイト出来る精神力を求めていました。

　実業団といえど、このがんばらんばカップの結果にこだわり、チームの成長のきっかけにしようとしています。

高校生以下の選手たちだけでなく、大学生・社会人・実業団にとっても刺激のある大会であり続けるために今後も選手の立場にたった目線で発展させていければと思います。

今年は大会運営では各選手たちに大変ご迷惑をおかけしました。

前日まで雪が降る状況で、大会の開催自体をどうするかを前日ギリギリまで専門部で話し合っていました。

当日、会場に着くとコート全面雪で覆われた状態でしたが、１時間繰り下げていた時間を使い、なんとか８面のコート復帰が出来、さらに１時間繰り下げたことで、１６面が使用可能となり、２時間遅れでスタートしました。

高校生を中心に必死の作業でしたが、最後まで無事に大会が終了したことで、各選手の頑張りが報われたように感じました。

また、前日の雪の影響もあり、気温も上がらない中でも、海星テニス部保護者の方々が笑顔で豚汁などを振る舞っていただき、選手だけでなく運営も順調に進めることが出来ました。

例年以上に、運営・スタッフ・選手が一体となった大会でした。

開催時期の検討も毎年行っていますが、小学生～社会人すべてのスケジュールを考慮しなければいけない状況のため、難しい部分もあります。

しかし、今大会のように各世代が出揃い、各チームでの課題や反省を引き出せる大会、そして、県テニス協会として様々な世代が交流し、国民体育大会へとつなげていける大会は非常に少ないと思うので、今後も出来る限り続けていければと思います。

たくさんの応援ありがとうございました！！

第9回がんばらんばカップ

2019／1／12　　柿泊

今年で第９回目を迎えたがんばらんばカップが柿泊で行われました。

開始式が行われる頃まではパラパラと雨も降っていましたが、その後は１日快晴となりました。

予選リーグでは小学生選抜とレジェンド長崎と対戦。　小学生選抜は１年１年積極性が出てきている印象を受けました。

今年はジュニア委員である大塚さんが監督として入っていましたが、大塚さんが関わるようになって小学生世代は大きく変化していると思います。

選手としての心構えがしっかりしてきて、試合に臨む姿勢も向上していると思います。

レジェンド長崎として出場した田邉さんからも貴重なアドバイスを頂きました。

小学生選抜の今後のさらなる成長に期待しています！

そして、今年初参加となったレジェンド長崎。

長崎テニス界を長年引っ張ってこられた田邉さん（親和銀行）を始め、長崎県内外で活躍された方々に参加して頂きました。

その中で、長崎出身で高校時代には日本一も経験した橋川くん（日大２年）が参加してくれました。

予選リーグの試合が終わってからも、１３時半から始まった強化練習会でも夕方までジュニア選手と打ち合ってくれました。

今大会は成人式を控えた忙しい時に、大会参加を自ら決断して、様々なことを伝えてくれました。

田邉さんや橋川くんのお陰で、試合だけではない強化を図ることが出来ました。

本当にありがとうございました！！

男子本戦準決勝では親和銀行に競り勝ち、決勝戦ではﾌﾝﾄﾞｰｷﾝ醤油と対戦。

決勝

海星　２－１　フンドーキン醤油

D1　中川・姉川（２年・１年）　２－６　岡部・中井

S　田中（２年）　６－４　矢野

D2　野田・井崎（２年・１年）　６－２　梶谷・松木

４年ぶり３度目の優勝となりました！

準優勝となったフンドーキン醤油の選手たちは、昨年は雪の影響で不参加となり、２年ぶりの参加でした。

OB の矢野・渡邊・染木の３名が現役で活躍していますが、勢い・元気さを感じさせるチームです。

予選リーグ・準決勝・決勝と勝ちにこだわって試合をしている姿勢は試合を見ていた高校生以下の選手だけでなく、大学生選手たちにも感じてほしい部分です。

海星の田中にとっては、レジェンド長崎の橋川くんとの試合で全国との差を実感することができ、そこから準決勝・決勝と元気な社会人選手相手に落ち着いて勝ちきることが出来ました。

今大会は、中川がまとまりを作り、野田が冷静に試合をコントロールし、田中が勝利を手繰り寄せる理想的な大会となりました。

この感覚を大切にしながらも、１年生に残された課題をどうクリアしていくかを考えて行きたいと思います。

そして、女子は決勝戦で鹿児島銀行と九州文化学園が対戦。

決勝

鹿児島銀行　２－１　九州文化学園

D　江籠・円本　６－４　桝富・中村

S1　川畑　６－３　本田

S2　福島　３－６　平原

９月に行われたさくらじまんカップでは苦杯を喫していた相手に真っ向勝負で勝利し、初優勝を果たしました。

来週から日本リーグがある中、参加をしていただいたことは本当にうれしく思います。　対戦して頂いた高校選抜や中学選抜、九州文化学園は多くのことを吸収出来たはずです。　鹿児島銀行の選手の中には８試合こなした選手もおり、何度も中高生に胸を貸していただきました。

江籠監督と選手たちには鹿児島からわざわざお越しいただき、手を抜くことなく全力でプレーしていただきました。

その姿勢に応えるべく、長崎県女子選手たちも例年以上に気持ちのはいった試合が多かったように思います。

そういった姿勢を見て、江籠監督からも来年もまた来ます！という言葉もありました。　鹿児島銀行の江籠監督・選手たちには感謝しかありません。

社員選手のみでプロ選手相手に戦うことは簡単なことでありませんが、日本リーグセカンドステージも楽しみにしています！

応援よろしくお願いします！！

最後に、毎年海星高校テニス部保護者による豚汁・ぜんざい・うどんなど保護者の方々が協力して大会を盛り上げていただきました。

がんばらんばカップ名物といっても過言ではないほど、関係者みんなが楽しみにしています。

続けることは簡単なことでありませんが、今後も様々な方々にご協力いただきながら継続して頂ければと思います。

ありがとうございました！！

来年は第１０回となり、この事業をスタートして１０年となります。

これまでも様々な困難がありましたが、参加選手たちにご協力頂きながらなんとか続けることが出来ています。

今年高校選抜女子選手の中に、毎年がんばらんばカップ参加を楽しみにしてくれている選手がいることを知りました。

いつの間にか、この大会に出ることが長崎県選手たちの目標になっていると感じ、非常に嬉しく思います。

長崎国体での成功を目指して始めた事業ですが、長崎国体が終わっても続けてこられたのは各選手たちのそれぞれの思いがあったからこそです。

今後も様々な困難があるかと思いますが、目標となる大会であり続けられるように常に新鮮な気持ちで継続していければと思います。

長崎県の選手たちが今後も強い絆を持ち、各世代が強化と伝統の継承を行なっていけるように。

ご協力いただいた皆様、ありがとうございました！！

第１０回も応援よろしくお願いします！！